jp018

題： 高度情報化社会における新媒体の是非

名前：

近年コンピュータの技術が発達しインターネットが至る所で使えるようになりました。インターネットは情報の相互伝達ができデジタル情報のため持ちはこびも自由でしかも環境にも負担をかけないので究極のメディアであるという人がいます。私はその点に関して賛成ですがその普及により新聞や雑誌を駆逐してしまうとは考えません。

その理由としてまず第1に情報の視認性があります。インターネットで情報を見る際にそれを表示するのはパソコンのモニターです。一般的にそれは新聞のサイズに比べて大変小さなもので一目見ただけで記事全体の概要がわかるという新聞の方が情報を得る上で効率的であると考えます。大きなモニターに表示した場合はどうでしょう。確かに一度に見ることのできる領域は広がりますが新聞のようにいろいろな所に持ちはこぶことはできなくなってしまいます。よって一目で情報を受けとることができるという点で新聞はインターネットに対し大きな利点を持っているといえます。

第2の理由として私が挙げたいのは操作性です。近年のコンピュータのユビキタス化によってその操作性は格段に向上し直観的にわかりやすくはなっていますが、わざわざコンピューターの前に行って、マウスを机の上で転がして…。という操作に比べて雑誌、または新聞のめくる、折るといった操作はコンピュータのように無駄なインターフェースを介さないためにわかりやすいです。

最後に情報の確かさが挙げられます。インターネットは誰もが情報発信できる反面、間違った情報が流れる可能性や改ざんの危険性があります。これに対して新聞、雑誌はそれを職とする執筆者がいて内容も校正を経ているため相対的に情報の信用度は高いと言えます。

以上のことからインターネットが普及しても新聞、雑誌は必要であると私は考えます。

1800字

コクヨ ケ-265 20×40